

鎌ヶ谷市 郷土資料館 だより 第49号

目次

- 『新発見資料展』を開催…………… 1～2
- 歴史・民俗資料が被災した時には…2
- 郷土資料館この一品⑧ …………… 2
- 資料館「夏のアルバム2019」…3
- 資料館セミナーを開催…………… 4
- 「鎌ヶ谷給食50年史」を開催……4

文化財に親しもう

ご覧ください！新しい鎌ヶ谷の宝もの

『新発見資料展(10/26～2/22)』を開催

毎年11月1日から7日は「文化財保護強調週間」です。この週間に合わせ文化財に親しむことを目的として、全国的に様々な催しが行われます。鎌ヶ谷市でもこの一環として、平成30年度に市内の遺跡で発掘・調査した埋蔵文化財と、郷土資料館が新たに発見・整理した歴史・民俗資料のうち、主なものを展示する「新発見資料展」を開催します。いずれも初めて公開するものばかりです。ぜひこの機会に、新しく仲間入りすることとなった「鎌ヶ谷の宝もの」をご覧ください。

江戸時代の絵画など初公開！

今回の展示内容をご紹介します。まず、「歴史・民俗資料」では、これまで知られていなかった



商家の当主家督引き渡し画（江戸時代末）

江戸時代の古文書や絵画をはじめ、明治時代の公的文書、戦争関係資料、昭和期の少年雑誌や絵葉書・御札・民具・着物類の原本と、市域を撮影した写真パネルを展示します。

また、「埋蔵文化財」では、向原 No1 遺跡（東中沢）、向山 No1 遺跡（初富本町）、中沢貝塚、鎌ヶ谷5丁目所在の野馬土手などから出土した遺物と遺跡の写真パネルを展示します。

期間 10月26日(土)～2月22日(土)の午

(2ページに続く)



第一回国勢調査記念時計の裏側 (大正9年)



昭和40年代の少年漫画週刊誌

(1ページ目からの続き)

前9時～午後5時。ただし、毎週月曜日および11月3日(日)、11月23日(土)、12月28日(土)～1月3日(金)、1月14日(火)、2月11日(火)は休館します。

会場 郷土資料館2階展示室

ギャラリートークも開催

展示期間中、担当学芸員によるギャラリートーク(展示解説)を行います。申し込みはいりま

歴史・民俗資料が被災した時には

台風15号は、県内に甚大な被害をもたらしました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

幸い、市内での大きな被害は確認されていませんが、自然災害・人災はいつ降りかかってくかわかりません。

もし何らかの被害で、自宅に残された歴史・民俗資料が被災した時は、廃棄する前に郷土資料館にご相談ください。貴重な資料を未来へ残す方法を考えます。

せんので、お気軽にご参加ください。

日時 ①11月10日(日) ②12月11日(水) ③1月18日(土) ④2月20日(木)
のいずれも午後1時30分～2時30分

問い合わせ 郷土資料館 ☎445-1030
FAX: 443-4502

郷土資料館この一品⑧

根郷貝塚出土の大型甕〔常滑焼〕

郷土資料館に入ってまっすぐ奥に進んでいくと、大きな甕かめの展示が目につきます。これは、昭和62年に根郷貝塚ねごうかいづかを発掘調査した際の出土品です。高さは73cm、最大径は77cm、開いた口の径は47cmで、愛知県知多半島付近で作られた常滑とこなめ焼です。14世紀前半の鎌倉時代後半のものとして推定されており、その成形技法は砂の上に置いた底となる粘土の円盤の上に粘土紐ひもをらせん状に巻き上げて、その



首なし人骨が入っていた甕

部分が乾燥して固まったら、さらに巻き上げていく「粘土紐巻き上げ」という方法によって作られています。しかし、大型化すると調整が難しくなり、この資料は、口の部分が焼く時にへたりこんでしまっています。そのほかにもいろいろな特徴があるようです。

この甕は、発見時に底部から人骨が出土しています。これだけ大きいものであるため、遺体をこの中に入れて土葬したものと考えられます。しかし頭骨がなかったこと、また、そばから馬が埋葬されたような状況で見つかったことから特別な埋葬であったと考えられます。



そばからは馬の骨が

出典：「根郷貝塚出土の蔵骨器について」山田友治(鎌ヶ谷市史研究第2号(1989年))

まが玉づくり・8/10



世界に一つの宝ものをめざし根気よく石を削る。



できあがった「まが玉」を手に、かまたんと記念写真。

資料館「夏のアルバム2019」

梅雨明けが遅れた今年の夏。しかし、明けた途端、それまでの遅れを取り戻すかのような連日の猛暑にウンザリした皆さんも多いはず。そんな中、今年も郷土資料館の夏の講座・教室には大勢の皆さんが参加してくれました。ここでは写真でその様子をご紹介します。

クールシェア企画・8/8



懐かしいヒット曲をレコードで鑑賞。
当時の思い出が鮮やかによみがえる。

あんぎんコースターづくり・8/4



大昔の人はこんなに苦労して布を編んでいたのネ。

めざせ！考古学博士・8/28



未来の考古学博士は土器の修復作業に興味津々。

郷土資料館セミナーを開催

東葛地域の原始・古代・中世

地域の歴史を振り返るとき、現在の行政区域のみに注目していると、異なる時代の支配領域や文化のつながりなどを見落としがちになってしまいます。

そこで、今年度の郷土資料館セミナーでは「東葛地域」という広い範囲に焦点を当て、原始・古代・中世の歴史をひもといていきます。「縄文時代の東葛地域はどんな感じだった?」、「板碑って何?」、「中世の東葛地域の様子は何?」など、皆さんの知的好奇心を満たす歴史探究講座です。講師は県内をフィールドに活躍している研究者の方々。最新の研究成果を交えてお話しくださいます。この機会に、地域の歴史についてちょっと詳しくなってみませんか。

対象 市内在住・在勤・在学の方

日程・内容・講師 ①12月12日(木)「戦国大名北条氏と房総」・柴裕之さん(千葉県文書館県史・古文書課嘱託) ②12月20日(金)「縄文時代の東葛地方」・領塚正浩さん(市川

考古博物館学芸員) ③1月17日(金)「石材から見た縄文時代の鎌ケ谷市」・柴田徹さん(松戸市立博物館非常勤研究員) ④1月24日(金)「考古学から見た鎌ケ谷の板碑」・倉田恵津子さん(聖徳大学非常勤講師)

時間 いずれも午後2時～4時

会場 生涯学習推進センター(まなびいプラザ) 3階研修室

定員 50名(11/15から受付・申込先着順・1回のみ参加可)

参加費 無料

申し込み 郷土資料館 ☎445-1030

FAX: 443-4502

いただきます! 鎌ケ谷給食50年史

— 収蔵資料展示を開催 —

今年、鎌ケ谷市が給食をはじめてから50年目の節目の年。そこで、今回は「給食」をテーマにした収蔵資料展示を10月26日(土)から来年3月31日(火)までの予定で行います。

鎌ケ谷で本格的な給食が始まったのは昭和44年(1969)のことです。その1年後の昭和45年の嗜好調査の結果によると、当時の小学生が好んだメニューはスパゲティーマイトソースやカレーライスなどでした。

今回の展示では鎌ケ谷の給食史に関する写真や歴史資料、当時の給食レプリカなどを展示します。ぜひご来館の上、ご家族やご友人と懐かしい給食の思い出を語ってください。



楽しい給食の時間



郷土資料館に展示している中沢の万福寺境内
遺跡から出土した「種子板碑」

鎌ケ谷市郷土資料館だより 第49号 令和元年10月15日発行 編集・発行: 鎌ケ谷市郷土資料館

住所: 〒273-0124 鎌ケ谷市中央1-8-31 Tel: 047-445-1030 Fax: 047-443-4502

メール: kyodo@city.kamagaya.chiba.jp

ウェブサイト: http://www2.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudo_2/index.html